事業計画書

1.　事業名称　　ゲット　ユア　ドリーム　事業

2.　実施主体

■　団　体　名：特定非営利活動法人　子どもの環境を守る会Ｊワールド

■　事業担当課：子育て支援課

3.　取り組もうとする課題

【問題の背景（現状）】

＊核家族化や少子化が進行し、さらには地域の中での交流が減少している。

＊行政・学校・民間団体・地域の大人が個々に存在し、中高生に対する連携した支援が少ない。

＊地域の中で、若者が自分の将来に対して考えていく力を養い支援する人材が少ない。

【解決したい問題】

＊子どもが世代を超えて人々と出会い、様々な価値観に触れる機会が減少している。

＊自分の将来について不安を抱え、何かを始める前に諦めてしまう中高生が多い。

＊「何かをしたい」というような意欲を持った中高生が減少している。

＊自ら申込参加できる中高生もいるが、多くの生徒にとって自分で申し込みを行うことが難しいことがわかる。

＊２３年度事業の課題としてあった事業周知について、２４年度５月には松戸市内の中学校 10 校・市内高校１０校に訪問し、チラシ配布依頼・事業説明を行った。また、ＰＴＡ連絡協議会加入中学校の保護者へチラシを配布した。事業説明を行う中で、学校側にも当事業の必要性を感じていることがわかった。10 月の「高校ワークショップ」に向けて高校１校の協力を得て、また、東部地区の中学・高校６校において教師から生徒に声掛けし申込みを募る提案を受け、「地区中心型ワークショップ」を高校体育館で開催することができた。参加者は 23 年度ワークショップ 23 名、24 年度６月ワークショップ 23 名、10 月３１名（学校から１３名の申込み）と増え、効果は上がったが目標数値に達せず、生徒が参加することへの難しさは継続してある。

【取り組みたいこと（課題）】

＊多くの中高生が様々な職業や経歴の大人と対等に話が出来る交流の場を作る。

＊その中で、多様な価値観に触れ、自ら考え発言する機会を提供する。

＊無関心・積極的に参加できない子たちが参加できる体制を構築するために、「地区中心型ワークショップ」事業を理解していただき、協力してくださる学校を拡大する。

＊行政・学校・民間団体・地域の大人とのつながりを生み出し、地域の連携を強化する。

＊２３年度参加した高校３年生が２４年度に学生スタッフとして参加し、同年代として良いファシリ

テーター役を担った。継続支援を行うために、「今後も参加したい」「企画運営したい」という参加者を学生スタッフとして育成し、事業の発展性を生み出す。

＊事業を理解し、協力してくれる講師を２３年度事業９名、２４年度事業新規１２名得ることができた。講師や学生スタッフ、地域の支援者から構成する「サポーター」による報告会を実施し、継続的に中高生を支援するネットワークを構築する。

・ 協働事業を継続することにより、学校との連携も始まりワークショップの参加者が増えてきた成果も出てきたため、23 年度、２４年度の反省を活かしながら２５年度も継続することで、地域で活躍する様々な大人たちと中高生が触れ合うワークショップを開催し、一人でも多くの若者が自らの可能性を信じて成長する機会を提供する。

4.　事業内容及びスケジュール

（３の課題に取り組む上で、実施する事業及び具体的なスケジュールを記載してください。）

・松戸市内全域の全校生徒にチラシ配布を行う「全域型ワークショップ」を行い、事業周知をする。（１回）

・松戸市内の学校を対象にチラシ配布公募するとともに、拠点とした地区の中学高校の全校生徒にチラシ配布を行い参加者の取りまとめを学校に依頼する「地区中心型ワークショップ」を行う。（目標２地区）

・両ワークショップとも様々な分野で活躍している大人たちが、仕事紹介と共に、自分がどのように今の仕事をするようになったのか自己体験を話すことを中心に、同じ目線になって中高生と対話・交流を持つ。また、中高生が自分の意見交換を行い、受け取ったことを発表する。

・事業を理解し、協力してくれるサポーターを増やす。

・青少年課・中学校・高校・民間団体・PTA 連合会からも協力を得て、参加者の募集・事業の周知を行う。

・一過性のイベントではなく、ワークショップに参加した中高生たちが、当法人が運営している中高生の居場所「ユースペース」に来て継続した関わりを持ち、ワークショップや他のイベントの企画などにも参画できるようにする。

（日程、場所、実施内容を具体的に記載してください。）

日程	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
４月～６月	事業説明及び協力校募集 チラシ・ポスター作成・配布	ちらし22,000 部 対象：松戸市内の中学・高校
６月	全域型ワークショップ	対象：松戸市内の中学・高校生 場所：未定
７月～９月	事業説明及び協力校・サポーター募集 チラシ・ポスター作成・配布	ちらし6,300 部 対象：松戸市内の中学・高校
９月	地区中心型ワークショップ①	対象：松戸市内の中学・高校生 場所：未定

9月～10月	事業説明及び協力校・サポーター募集 チラシ・ポスター作成・配布	ちらし6,300部 対象：松戸市内の中学・高校
11月	地区中心型ワークショップ②	対象：松戸市内の中学・高校生 場所：未定
11月～3月	サポーター報告会 活動報告パンフレット作成	対象：講師、学生スタッフなど 場所：未定 3000枚

5.　事業に期待する成果

（事業を実施する上で、どれだけのことを達成したいのか。その目標を数値などで記載してください。）

○・24年度事業のワークショップに参加した中高生が、様々な講師の人生観を直接聞くことで感動し、アンケートから、「将来について考えるきっかけとなった」「あきらめないことが大事」「仕事の裏話も聞けた」「生きていく上で何をすればいいのかわかった」「他の人に本音を話せた」「一歩進んでみる」「この体験をしたかった」などの感想を得た。当事業の手ごたえが感じられ、さらにそのような中高生を増やしていく。

・「全域型ワークショップ」は参加者50名を目標とする。

・「地区中心型ワークショップ」では、公募と共に、協力校と連携し、自ら参加申込の難しい受動的な生徒の参加も募る。参加者80名を目標とする。

・過去に参加した中高生も継続参加できるようにする。24年度では、23年度経験者にグループリーダーを募った。グループリーダーは初めて当事業に参加する中高生が馴染めるように声かけ等を行っており、主体性が見られた。今後も継続参加者に企画から参加し主体性が成長する機会をつくる。

・松戸市、学校、地域、当法人の4者のお互いの役割について理解や連携が深められ、中高生を支援する協力体制が構築される。

○・協働事業を通して中高生の実態をより具体的に把握をすることができ、松戸市の今後の次世代育成の施策に貢献出来る。

6.　協働の意義

（協働の必要性、協働で事業に取り組むことの効果、提案者や市のメリットなどを記載してください。）

・民間団体独自では築くことのできない学校や他のNPO団体に対し、市の協力をへて道が開かれ、PRしきれなかった中高生に対しても幅広く当団体の活動を知ってもらうことができる。

・市と協働することにより事業の信頼性が高まり、協力校を得ることにつながる。

・ワークショップに協力してもらう「大人」「学生ボランティア」の人選において、当法人と市の持っている双方の人脈を活用し、より多様な人材の協力が可能になる。

・協働事業をしていく中で地域の大人たちが子どもの育成に関わり、中高生を支える環境が生み出される。

・松戸市次世代育成支援行動計画において、「思春期の子どもに対する支援をする」という項目で、子どもが地域社会で活躍する様々な大人と触れ合い、自らの可能性を信じて成長することを支援する事業の実

施を規定している。本協働事業の実施により、当法人の専門性を活かした内容で計画に規定された事業を実現できる。

7.　事業実施の役割分担

■　提案者の役割

（提案者が行うことを具体的に記載してください。）

① ワークショップ等の企画、準備

② 協力校・講師との連絡・調整

③ 学校その他を含めた広報活動

④ チラシ等の広報文章の作成

⑤ 参加者のフォローアップ

■　担当課の役割

（市が行うことを具体的に記載してください。）

① 協働事業を進める上での当法人に対する指導

② 協力校・講師が当法人とつながるための調整

③ 学校その他を含めた広報活動

④ 会場の選択や提供

⑤ 資金の提供

8.　将来の展開

（このモデル事業の成果をどう活かし、今後、事業展開していきたいのかを記載してください。）

※今年度提案する事業又は、モデル事業期間（３年を限度に申請が可能）に期待する成果を活かし、今後、どのように事業展開していきたいのかを説明してください。

・ワークショップを基盤とし、中高生が日常生活の中で地域の大人や様々な職業の人たちとの交流を持つことが出来るようになる。

・協働事業が終了した後も、松戸市内の中学・高校と当法人の信頼・協力関係が深められていき、中高生の支援が継続していく。

・当事業が継続していく事によって、参加した中高生が卒業し、学生・社会人スタッフとなり、経験を積んで講師として参加するサイクルが生まれ、世代を超えて中高生をサポートする地域社会となる。

・松戸市次世代育成支援行動計画に規定しており、思春期の子どもに対する支援をする事業であり、来年度以降も実施形態は状況に応じ判断し、継続して実施する。

事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

		金　　額	積算内訳
提案者	（自己資金）	40,000円 98,100円	寄付金 会の事業費
	自己資金合計（a）	138,100円	
	労力換算額計（b）	296,500円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	351,000円	
資金合計額（d）（a＋c）		489,100円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1．対象となる経費（e）欄の90%以内

2．1事業あたり50万円以内

3．自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

項　　目		金　　額	積算内訳
負担金の交付対象経費	全域型ワークショップ費	125,500円	ちらし22,000部73,000円 講師謝礼　4,000円×8名 消耗品10,000円 飲み物お菓子代@150×50人 行事保険60名3,000円
	地区中心型ワークショップ①費	86,000円	ちらし6,300部　19,000円 講師謝礼4,000円×10人 消耗品10,000円 飲み物お菓子代@150×80人 行事保険90名5,000円
	地区中心型ワークショップ②費	86,000円	ちらし6,300部　19,000円 講師謝礼4,000円×10人 消耗品10,000円 飲み物お菓子代@150×80人 行事保険90名5,000円
	活動報告パンフレット作成	68,000円	3,000部　68,000円
	通信費	25,600円	切手代@80×320枚
	対象となる経費合計額（e）	391,100円	

その他経費	スタッフ交通費	19,500円	①300円×15人 ②700円×15人 ③300円×15人
	スタッフ飲食費	22,500円	@500×15人×3回
	スタッフTシャツ作成費	48,000円	@1,600円×30枚
	ワークショップ ゲーム・景品代	3,000円	1000円×3回
	サポーター報告会 お茶菓子代	5,000円	@100×50人
	その他経費合計額（f）	98,000円	
事業費（g）（e＋f）		489,100円	収入合計額（d）と同額

※　対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

労力換算計算書

（単位：円）

項目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	ちらしポスター原稿調整	4,500円	1人×3時間×3回×500円
	市との打合せ	7,000円	2人×1時間×7回×500円
	講師依頼調整及び打合せ	14,000円	1人×1時間×28回×500円
	ワークショップ企画準備	22,500円	5人×1時間×9回×500円
	ワークショップ当日運営	180,000円	15人×8時間×3回×500円
	学校と打合せ	6,000円	2人×1時間×6回×500円
	学校PR訪問	12,000円	2人×6時間×2回×500円
	活動報告作成	2,500円	1人×0.5時間×10回×500円
	通信作成	33,000円	11人×2時間×3回×500円
	サポーター報告会準備・運営	15,000円	10人×3時間×1回×500円
合計（b）		296,500円	